

ピロリ菌除去に効果のある乳酸菌 *Lactobacillus reuteri* DSM 17648 による臨床試験

Caterina Holz1, Gilles Jequier2, ○高木 忍3, 平山 卓磨4, 井上 俊忠4 (1Novozymes Berlin GmbH, 2Novozymes Switzerland AG, 3ノボザイムズ ジャパン (株), 4 (株) ヘルシーナビ)
e-mail: st@novozymes.com

<目的>

乳酸菌 *Lactobacillus reuteri* DSM 17648 はピロリ菌に対して共凝集作用をもち、ピロリ菌の除去に効果のある菌(死菌体)として開発された^{1,2)}。胃腸の健康管理における本菌の効果を確認するため、種々の臨床試験を行ってきた。

<実験方法>

18歳以上の健常成人における臨床試験を、ドイツ、ロシア、アイルランドで行なった³⁻⁶⁾。試験は主に単盲検、交叉試験(プラセボ2-4週間、ついで本菌処置2-4週間)で、菌体投与は死菌体 5×10^9 を含んだタブレット2錠ずつ2回/日行い、定期的にピロリ菌の有無を標準¹³C尿素呼気試験で調べた。アイルランドの臨床試験では、ピロリ菌の増減に加えてQOLをGSRs (Gastrointestinal Symptom Rating Scale)で評価した。

また、ピロリ菌標準治療法(3剤法:アモキシシリン、クラリスロマイシン、オメプラゾール)における本菌の添加効果を検討した。ピロリ菌感染者60名を三群に分けて、第1群は標準3剤にビスマスを加えた4剤処理を10日間、第2群は標準3剤処理を10日間、第3群は3剤処理10日間に加え本菌体200mgの投与を28日間行い、56日後の状態を比較した。

<結果と考察>

いずれの試験でもプラセボではピロリ菌の存在に有意な差が見られなかったのに対し、試験区では10%以上の有意な減少が見られた³⁻⁶⁾。ロシアの臨床試験では、空腹時や食後の痛み等の症状の有意な改善が見られた⁵⁾。

ピロリ菌標準治療法における効果は、ピロリ菌の残存率が第1群では20-30%、第2群では10-15%であるのに対し、本菌体を投与した第3群では0-5%と有意に改善されたほか、QOLスコアも一般的な健康(GH)、痛み(BP)、気分(RE)などで改善が見られた。現在、さらに様々な臨床試験を行なっているところである。

<関係文献>

- 1) 国内特許: 第5392672号、
- 2) 国内特許: 第6062931号
- 3) Mehling H, Busjahn A (2013) *Nutrients*, **5**, 3062 – 3073
- 4) Holz C, et al. (2015) *Probiotics Antimicrob Proteins*, **7**, 91 – 100
- 5) Bordin DS et al. (2016) *THERAPIST*. 5: www.lvrach.ru
- 6) Buckley M, et al. (2018) *BMC Nutrition* **4**, 48

<Title>

Clinical studies of *Lactobacillus reuteri* DSM 17648 which is effective to remove *Helicobacter pylori*